

職員による自己評価

A 環境面

活動スペースは充分とはいえないが、利用者の状況に応じてレイアウトの工夫をして、最大限の活動ができるよう確保している。

B 業務改善

支援記録の作成方法が定着し、より適切な支援計画書が策定できるようになった。

C 児童への支援内容

利用児童の変化に合わせてプログラムを充実させリトミックやクッキングも定着した。
漢検・数検の受験とそのサポートは定着し、これまで全回合格の実績がある。

D 保護者への説明責任・信頼関係

会報誌の発行はほとんどできなかったが、その分ホームページの更新頻度を増やした。

E 非常対応

感染症予防 BDP・自然災害 BCP を策定し、指導員にも研修や訓練を行った。

保護者による評価

A 環境面

- ・スペースは充分でないが、それなりに工夫はされている
- ・バリアフリー化されていないが、安全は確保されている

B 適切な支援の提供

- ・活動プログラムは固定化されないよう工夫されている
- ・障害のない子どもとの活動機会はない
- ・放課後等デイサービス支援計画の作成には満足している

C 保護者への説明等

- ・保護者会は開催されていない
- ・子どもの状況についての保護者との共通理解や意思疎通はなされている
- ・支援の内容について丁寧な説明がされている

D 非常対応

- ・マニュアルの策定はされている

事業所内での分析

- ・環境面（設備）は充実していないと感じているが、その中で最大限の工夫はされていると認識している
- ・保護者面談などにて丁寧な説明ができており、意思疎通や情報伝達について保護者の満足を得ている
- ・スペースの狭い中でも工夫して、子ども達が身体を動かして遊ぶ機会を設けている
- ・防災について BCP も含めた見直しを行い、より実態に即した予測と対応を考えマニュアル化した

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・モニタリング・面談に基づいた支援計画を保護者に理解してもらえており、満足度も高い
- ・イベントや外出は少ない分、プログラムを充実させ、児童ひとりひとりを手厚くサポートすることができる
- ・見学時に事業所の特色をきちんと説明し、理解してもらった上で利用開始してもらっているため、保護者と支援の方向性が一致している

事業所の改善点

- ・防災訓練や各種マニュアルの整備について周知されていない
- ・地域交流や保護者会を開催していないが、今後必要性を吟味する
コロナ禍で止まっていた地域交流については今後検討したい
- ・職員が外部研修を受講するなどのスキルアップを図れていない

事業所の改善への取り組み

- ・常に整理整頓に尽力し、活動スペースを確保する。また、限られたスペースを活用できるように活動プログラムも工夫する。
- ・少なくとも月1回のホームページ更新を継続する。これにより利用頻度の低い児童や関心の薄い保護者にも取り組みを理解してもらえるよう情報発信する。
- ・漢字検定と数学検定のサポートは継続したい。学習支援については中学生も増えたので支援のステップアップも検討する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・送迎車とドライバーの不足により外出イベントはほとんどできていないが、室内プログラムを充実させることはできている。今後も継続したい。
- ・アンケートの「子どもは通所を楽しみにしているか」と「事業所の支援に満足しているか」という項目が高評価であったことが励みとなるので、これを維持できるよう今後も努めたい。

事業所名 プレップサポートセンター下永谷

担当者 長尾 かおる